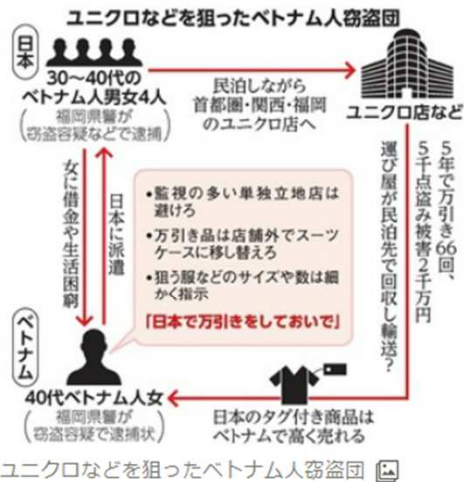


「万引きしやすい」 ベトナム人窃盗団に狙われた日本のユニクロ

伊藤未来 2024年2月6日 14時00分



主にユニクロを狙ったベトナム人窃盗団が、福岡県警に摘発された。指示役とされる女はベトナムに滞在したまま、SNSで狙う衣服のサイズや色などを細かく指示し、日本に派遣された4人組は毎日のようにスーツケースを満杯にするほど万引きをしていた疑いがある。ベトナムにもユニクロはあるなかで、なぜ日本で万引きを繰り返したのか。

ユニクロなど狙うベトナム人窃盗団、5千点万引き 女が本国で指示か →

「ベトナムでは、日本の方が万引きしやすいという話題がネットで広まっているんです」

日本在住で貿易関連の仕事につくベトナム人女性（25）は、こう明かす。日本のユニクロの店舗で、無人のレジや店員の目が届かない場所で商品を選べる環境を不思議な感じで見てきた。「万引き対策が厳重なベトナムでは珍しい。技術面で素晴らしいと言う人もいるし、一方で悪用する人もいるだろう」

ユニクロのホームページなどによると、2019年にホーチミンにベトナム1号店を開店後、22店舗を展開している。

女性によると、ベトナムでは、ユニクロをはじめ、ファストファッションが人気を集め、「経済が発展し、この数年でユニクロの商品はとて流行している」という。

日差しが強いベトナムは美白ブームで、女性の周辺ではユニクロのUVカットパーカが人気だという。

女性は冬に冷え込むベトナム北部出身で、「現地で購入できる衣料品より多少高くても、暖かくて長持ちするユニクロのダウンとヒートテックが人気」という。福岡県警が摘発した今回の窃盗団はセーターなどを盗んでいたとされるが、女性は「寒い地域では需要がある」と話す。

ユニクロの衣服はベトナムなどで作られている。それでも女性は、ベトナムでは日本で販売されている商品への憧れがあり、「日本語の商品管理タグが付いていると品質がよさそうと思われるのかも」とした。

ユニクロを運営するファーストリテイリングなど約100団体が会員の全国万引犯罪防止機構（東京）によると、多くの加盟団体が万引き被害に悩まされている。

機構によると、2016~22年の来日外国人による万引き被害を、容疑者の国籍別で見ると、検挙者数と検挙件数のトップが共にベトナム人だ。21年には649人（2081件）が検挙されている。

22年は、488人のベトナム人が1927件の万引き容疑で検挙された。機構の光真（みつぎ）章事務局長によると、衣料品店やドラッグストアを主に狙っているといい、検挙人数に対して件数が約4倍であることから「繰り返して窃盗をしているとみられる」と指摘する。

日本万引防止システム協会長の稲本義範さんによると、防犯システムを遮る手口に対する機器の導入が進み、「対策の技術は上がっている」と説明する。だが、「海外に比べて日本は導入企業はまだ多くない」と指摘。「防犯機器を組み合わせ使い、顔を認証する防犯カメラを付けるなど複合的な対策が必要」と訴える。（伊藤未来）